

## 研究主題、副主題のいわき支部としてのとらえ方

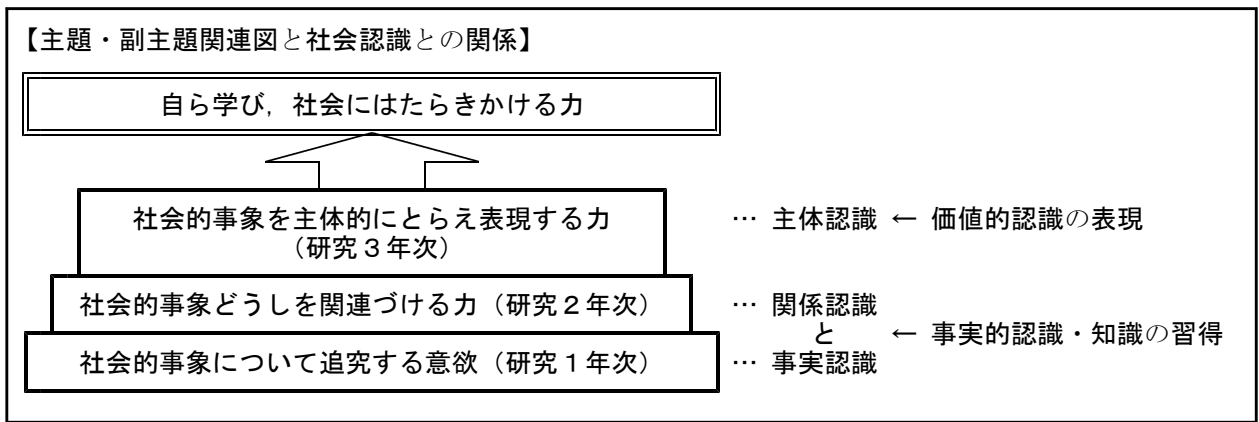
### (1) 研究主題のとらえ方

研究主題 「自ら学び、社会にはたらきかける力を育成するための社会科の授業はどうあればよいか」

研究主題に述べられている「社会にはたらきかける力」について、県中教研社会科部報第45号では次のように述べている。

よりよい社会づくりのために自ら行動しようとする力

自ら学んでいく生徒とは、「社会に目を向け、社会に対して課題意識を持ち、解決しようとする中で、よりよい社会とは何かを考え、その実現を目指して社会にはたらきかけていく」姿をいう。社会にはたらきかける力を育成することは、自ら学び続けていく生徒を育てていくことであり、これは、社会科改訂の趣旨にある「・・・知識基盤社会化やグローバル化が進む時代にある今こそ、世界や日本に関する基礎的教養を培い、国際社会に主体的に生き、公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成すること」とも関連している。新学習指導要領で要請されている内容を的確にとらえ、これまでの実践を踏まえながら、生徒に公民的資質の基礎を養っていく方策を探究していきたいと考える。



### (2) 研究副主題のとらえ方

研究副主題 「社会的事象を主体的にとらえ表現する力を育てる授業の工夫」

- ① 「社会的事象を主体的にとらえる」とは、社会的事象に対して自分の考えを持つことであり、その段階に至るまでの過程は、右図のように解釈する。
- 研究1年次ではア、研究2年次ではイ・ウに焦点をあてて研究を進めてきた。研究3年次では、ア～ウの過程で習得した事実的認識・知識に支えられ、根拠付けられて、事象に対してとるべき態度・行動の方向を示唆する「自分なりの考え」という価値的認識に注目する。すなわち、エ・オである。そして、力の表現活動を通して「よりよい考え」を見出させていく。

「自分の考えを持つまでの過程」  
ア 社会的事象に自分から目を向ける。  
イ 資料等から様々な情報を読み取る。  
ウ 事象の特色や事象どうしの関連を見いだす。  
エ 社会的事象の意味や意義を自分の言葉でとらえる。  
オ 自分なりの選択や判断をする。  
カ 自分の考えや判断を他者に伝えるように表現する。  
(部報第47号より)

- ② 「よりよい考え」とは、よりよい社会を目指すためには、よりよい考えを持ち、社会にはたらきかける必要があるが、いわき支部としては、社会にはたらきかける手立てよりも、生徒の「自分なりの考え」や「よりよい考え」を持たせるための手立てを志向して研究を進める。
- 「よりよい考え」とは、部報第47号を踏まえ、「社会的事象を多面的・多角的に考察した上で判断した考え」「効率と公正の概念で吟味した考え」と解釈する。まず、授業で取り扱った事象(社会的事象)と自分との関わりについて「自分なりの考え」を持たせる。それを基に他の社会的事象や社会認識との関連を図って、自身の社会認識を拡大・深化させ、「よりよい考え」を見出させていく。そのための方策や生徒の学習活動の様相を明らかにしていきたい。

③ 「表現する力」とは

「よりよい考え」を持つためには、お互いが持つ「自分なりの考え」を表現し合う交流活動が有効であり、いわき支部では注目していく。その際、部報第47号で示されている「自分の考えを適切な言葉で表現する力」や「資料を活用する力」は、表現する際の基盤となる力であり、指導計画に位置付け、適切に評価していく。このことは、言語活動の充実の視点からの要請でもある。他者との交流の中で、他者を納得させるように表現する力を身につけた生徒は、自分の考えに対する自信とそれを社会にはたらきかけたいという意欲を持ち、表現するようになっていくであろう。

### (3) 今年度の研究内容

① 研究の視点

上述したことを踏まえ、いわき支部では、以下の視点に焦点をあてて研究を進める。

**「社会的事象に対する『自分なりの考え』を交流させ、『よりよい考え』を持たせるための授業デザイン」**

これまでの研究の成果と連続性を考慮して、今年度も単元構成・設計の工夫に取り組み先述した「自分の考えを持つまでの過程」を柱とした単元デザインを行う。授業者の思いや情熱が存分に組み込まれた単元デザインとなることを期待したい。

また、「表現する力を育む交流活動の工夫」に注目し、生徒が、いずれ社会の参画者としてよりよい社会づくりのために自ら行動しようとすることを期待し、「自分なりの考え」をまとめ、発表し合い、「よりよい考え」を持つための手立てについて検討していく。

② 研究の方法

**ア 単元構成・設計の工夫（単元の指導計画である「単元構想図」の作成）**

- 本単元に関して、生徒がこれまでの経験や学習によって習得している知識や概念、技能は何かを生徒の実態として記入する。
- 単元の目標を踏まえ、「自分なりの考え」を持たせ、「よりよい考え」を見出させるための「単元全体を貫く学習課題」を検討する。
- 「自分の考えを持つまでの過程ア～カ」との関連を明記する。
- 指導方法の工夫を検討する。
  - ・ 学習課題の工夫
  - ・ ワークシートの工夫（トゥールミン図式に依るワークシートの活用など）
  - ・ 身近な社会との関わりを重視する教材の活用や学習活動の工夫
  - ・ ICT活用の工夫
  - ・ 評価の工夫
  - ・ コーディネーターとしての教師の役割の工夫

**イ 「表現力を育む交流活動」の工夫**

- 「単元構想図」の中に明確に位置づける。
  - 【学習活動の工夫】  
プレゼンテーション、ディベート、パネルディスカッション、ロールプレイングなど
  - 【生徒作品の活用・発表】  
レポート、ノート、ワークシート、発表資料・原稿、BS法・KJ法の成果、概念地図など